



NO.954

2014・1・26

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三三・四四五八
F 四三三・四四五七



いよいよ流水!

福祉灯油の利用も本格的に

1月21日、「流水初日」と気象台から発表されました。

いよいよ、本格的な寒さを迎えることとなります。昔は、厄介物扱いされた流水ですが、流水が来ることにより、漁業資源が豊かになることがわかってきたことで、今では、「来ない」と困るものになりました。

クリオネや流水砕氷船が貴重な観光資源となるなど、昔には考えられないことでもありました。とは言いながらも流水が接岸すると、冷え込みは身体にしんまで凍えさせるように厳しくなります。

特に高齢者はこたえます。収入の少ない世帯にとっても灯油代が重くのしかかり身も心も凍えることになってしまいます。まして、今年のように灯油が、1リットルあたり100円を超える高値になれば布団にくるまってなんとかしのぐことにも限界が生じます。

平成19年度も灯油の価格が高騰し、暮らしを直撃しました。日本共産党は、全国的な運動として、低所得者の支援に取り組み「福祉灯油」を実現させたのです。網走市議会でも共産党市議団が奮闘。多くの市民の声もあり、当時の大場市長が実施を決定して網走市でも実現し、喜ばれました。

灯油高騰を受け、今年も福祉灯油が実施されています。日本共産党は、寒冷地帯の住民が低所得ゆえに寒さにおびえ、凍死にいた

るようなことが、あつてはならない。生活弱者といわれる人々を守るのは政治の責任だと考えています。

今年度の対象世帯は3356世帯ですが、1月21日現在申請しているのは1533世帯で、対象にならない世帯が39あり、申請率は44.5%になっています。

前年も福祉灯油を実施しました。申請受付期間が2月6日～3月22日までの短期間ですが、決定世帯数は2154世帯で申請率は66.9%でした。

まだ申請していない方は、遠慮しないで申請してください。

2014年 新春のつどい

日時 2月2日(日)
午後1時30分～3時30分
場所 エコーセンター2階大会議室
会費 1000円(中学生以下無料)
会費 日本共産党道国政相談室長

森 つねとさん

主催 日本共産党網走市委員会
日本共産党網走市後援会

ご参加のほど よろしくお願ひします

いよいよ東奔西走

死者6434人、全半壊(焼)約47万世帯という甚大な被害をもたらした阪神・淡路大震災(1995年1月17日)から19年経ちました。阪神・淡路の被災地ではさまざまな追悼の催しがあり、犠牲者への哀悼の意をささげる姿をテレビ等で拝見し、私も心で合掌しました。

私は、毎年明け方5時46分ごろにはいつも19年前の事を思い出します。当時所属していた陸上実業団の合宿を行っていた神戸市西区西神中央のある企業の合宿所の体育館で大地震に遭遇しました。朝練習直前での出来事で、その揺れと轟音には床に四つん這いになっても静止できず、女子部員の悲鳴と泣き叫ぶ声は怒号のように渦巻いていたことを昨日のように思い出します。

あれから19年、いままなお再建の借金に苦しむ人、住んでいる公営住宅の退去期限を迫られている人、コミュニティづくりを無視した街づくりになじめない人など、被害の爪痕は今も解決できていません。3・11の東日本大震災もあれから3年になろうとしています。

いままなお避難生活者は14万人にのぼり、原発事故も収束していません。政治の責任が今こそ問われています。

福祉奮闘メモ

「基地つくらせない 信念貫く」、辺野古への新基地建設の是非が最大の争点になった沖縄県名護市長選で「辺野古の海にも陸にも基地をつくらせない」と訴え続けた稲嶺進市長が、日米両政府が支援する新基地推進派に大差をつけて圧勝しました。

「国の露骨な圧力をはね返して勝ち取った歴史的な大勝」と地元紙でも報道されました。投票日翌日の記者会見で、稲嶺市長は、安倍内閣が「辺野古移設」推進の姿勢を変えていないことについて、「建設予定地近くの辺野古漁港など、市の管理下にある区域を調査・工事する場合は市長の同意が必要。そのような場合、市長の権限を行使する」「民主主義国家として、これだけの反対意見を無視して強硬にすすめることは地方自治の侵害。人権にもかかわる問題」と述べ、調査や工事を認めない考えを示しました。

なんとも力強い決意表明でしょう。がんばれ沖縄! 北海道から網走からも応援しましょう。

流水

私の高校時代の担任の先生は文学者でした。「白いリス」という児童文学で作家デビューし、後年、作品が小学校の国語の教科書に載るといふ、かなり著名な先生でした。お酒が好きでチェーンスモーカーで、作品を書くために、いつも夜更かしし・・・今ならお医者さんにながちり怒られる生活でした。▼私は卒業後、浪人生活でしたので、年賀状に「服浪中につき、年頭のご挨拶を失礼させていただきます」と書いて送りました。数年後、お会いしたとき「お前の年賀状はおもしろい」と言ってくれました。それがずっと記憶に残っていて、言葉とユーモアの感覚は大切だなと思うようになりました▼いろんな言葉がはやりです。「アベノミクス」もその一つですが、メディアでも批判をこめて「アベコペノミクス」「バカノミクス」とか初めの頃は言われていました。これもユーモアかな?しかし、最近「アベノミクス」と批判する記事がなくなってきたのは心配です。「アベノドクヤ」が当たったたら大変ですから▼このアベというお方は、靖国神社に行つて「不戦の誓い」をしてきたといひます。言葉だけを聞けば悪くないのですが「先の戦争は正しい」「犠牲になった兵士は英雄」という「不戦の誓い」をするのには最もふさわしくない場所での言葉と聞けば「嘘つけ」と思ってしまう。言葉の裏を考えなければならぬ人が首相といふのは不幸なことですよ▼ところで、恩師は、安藤美紀夫先生という方で、大学の教授になられた後、六十代で亡くなってしまわれました。先の年賀状には「あな醜 賢しらをすと酒飲まぬ人を良く見ば 猿にかも似む」という歌を添えてあったのですが「酒はほどほどに」と書いておけばよかつたなあ・・・(飲めない人、怒らないで。この歌は伴旅人だったか?有名な歌人の作ですから)。言葉には注意しなくちゃ(0)